



愛川ふれあいの村9月の風景

平成28年9月 自然のたより

9月に入っても暑い日が続いていましたが、夕方になると涼しく、過ごしやすい気候となりました。
ヤマボウシの実が多くなっていたり、クリの実も例年より大きな実を付けていたり、大きな花を咲かせたヒガンバナにカラスアゲハが蜜を吸いに来たりと、自然からの恩恵をたくさん見る事ができました。



ウラナミシジミの交尾



ヒガンバナの蜜を吸うカラスアゲハ



ナミルリモンハナバチ



鈴なりになったギンナン



クズの花



ヤマトシリアゲ



キイロモモフトハバチ



ミズヒキの花とホトタチアブ



ミンミンゼミ



ジョロウグモ



ルリシジミ



ツマグロヒョウモン



ヤマボウシの果実



花の蜜を吸うヒメハチマキ



ミヤマアカネ

◆月を愛でてみませんか◆

秋と言えば、お月見の時期ですね。そんな秋の月を代表する言葉として、『中秋の名月』があります。

『中秋の名月』と聞いて、何を思い浮かべますか。ススキが飾ってある中、丸いお団子を食べ、月を見る。多くの方は、そんなイメージをお持ちではないでしょうか。ではいつから月見をする習慣が始まったのでしょうか。

もともとは中国の風習だったのが、今から約1,000年以上前の平安時代に伝わったのが始まりと言われています。その頃は「観月の宴」と言い、月を愛でながら、貴族が和歌を詠んだりして、宴を開いていました。それが江戸時代になると、秋の収穫を感謝する「収穫祭」として親しまれ、人々に浸透していきました。その習わしが現代にも受け継がれています。収穫の感謝を込めて、お米で団子を作り、丸い形は月に似せています。またススキを飾るのは、稲穂に感謝する意味の他に、魔除けの意味もあります。一つ一つの所作に、意味があるのは、素敵な考え方です。時計もカレンダーもない時代に、農作業の基準として月の形や暦は重要な位置づけでした。満月の回数や新月から何日目の月なのかなどを人々はとても大切にしていました。現代より、もっと自然に寄り添って、生活していたのがうかがえますね。夜空で月を見かけたら、少し立ち止まって、月を愛でてみる、そんな時間を作ってみるのはいかがでしょうか。(高橋)

※中秋の名月とは、旧暦の8月15日の満月を指します。ちなみに来年は、10月4日です。年によって日にちが違っているのは、現在使っている太陽暦と太陰暦(旧暦)が違うためです。



▼国で違うトンボの捉え方▼

秋に移り変わり、夕焼け空にたくさんのトンボが飛んでいる姿が印象的です。

トンボは、昔から「勝虫」と呼ばれ縁起の良い虫とされてきました。縁起が良いとされたのは、一直線に前に進むように飛び姿や、蚊やハエなどの害虫を食べることが由来となっています。しかし、海外では「ドラゴンフライ」と呼ばれ、【ドラゴン=邪悪なもの】とされ、災いをもたらす虫とされているそうです。

国が異なることで、虫の存在の捉え方が異なるのは面白いですね。(鷺山)



★旬のお知らせ：栗★

9月に入って日に日に気温が下がり、秋らしくなってきました。9月～10月は実りの季節を迎え、たくさんの食物が旬を迎えます。

その中で今回は「栗」をご紹介します。縄文時代の約5000年前、木の実は重要な食用源であり、その中でも甘くおいしい栗は、貴重な食材だったことが推測されます。

おいしい食べ物に満ちあふれる現代でも、ゆでてそのまま食べるのももちろんのこと、「栗ごはん」や「栗きんとん」「渋皮煮」「モンブラン」など、様々な料理や和洋菓子の材料として使われています。(梅本)



◎十月の

注目ポイント◎

秋といえば『○○の秋』が盛りだくさん。中でも実り多い十月は『食欲の秋』と思いきや、浮かぶ方が多いのではないのでしょうか。

果実の実りが多い十月。中でもふれあいの村で、鳥たちに人気の高い果実が『柿』です。熟した果実は食用とされ、幹は家具材として用いられ、葉は加工し、お茶として飲むことができます。また、新芽の葉は天ぷらにして食すこともできます。さらに、染物の染料としても大活躍。染物は青い渋柿を潰し、絞った液を発酵させたものを使用する為『柿渋染』と呼ばれています。先人は、柿の果汁が空気に触れると硬化して被膜を作ることを発見し、身の回りの物に塗ると防水効果や耐久性が増すことを知りました。プラスチック製品が普及するまでは、柿渋液を各家庭で作り、家の柱や傘、酒袋など生活で欠かせない物に使用し、広く庶民に使われていた身近なものだったのです。

食欲の秋に、美味しい旬の物を食べつつ、こつこつとした自然の知恵を併せて知る事も、楽しみの一つにしてみてはいかがでしょう。(多田)



発行者：神奈川県立愛川ふれあいの村

TEL：046-281-1611 HP：<http://fureai-aikawa.com/>

写真：吉田文雄・大瀧裕基子

文章：高橋博・梅本恭代・多田藍子・鷺山裕・大瀧裕基子

編集：大瀧裕基子・吉田文雄



愛川ふれあいの村で、検索★